

「授業で感じる子どもたちの意欲」

校長 斎藤 滋

今年度は五、六年生の書写(硬筆)の授業で一つの課題が終わったら私が用意した「四字熟語」のシートを見ながら自分で書くという活動を行いました。目的は二つあって、一つは落ち着いて丁寧な字を書くこと、もう一つは多くの四字熟語に接し意味を正しく理解することでした。

しかし、子どもたちの取り組み方は私の予想通りといえますか、心配していた通りになってしまいました。この活動に取り組む子どもたちが皆積極的であったことは大変嬉しかったのですが、それぞれを取り組む方には違いがありました。ゆつくり丁寧に書く子、丁寧に書いていますが、できればたくさん書きたいという気持ちが強い子、丁寧さは意識せずにとにかく早く書きたい子に分かれてしまったように感じました。書写としての取り組みですから、一文字一文字を丁寧に書くことを望んでいるのですが、それがうまく伝わっていません。かたがと反省いたしました。作品展には、3年生から6年生までの硬筆の作品を展示しますが、そのための作品を書くときは多くの子どもたちがいつもの何倍もの時間をかけて仕上げていました。この活動で見られた子どもたちの「早く、たくさん」「人よりも多く」というような子どもたちの心理は悪いことも言い切れませんが、活動の内容を考えて自分が優先するべきことは何かをしっかりと意識できる子どもたちになれるようにしていきたいです。

さて、4年生の総合の授業では今年も知的財産についての特別授業を行いました。9年間続いている授業ですが、ボランティアで授業を担当してくださっている弁理士の先生には感謝の気持ちでいっぱいです。この特別授業は、子どもたちが「人

が考えたよいもの」を大切にできる人に、インターネットが発達した社会においても正しい判断ができる人に成長してほしいという願いを持って実施しています。授業の中で子どもたちの様子を見ていて、「ブログ」「ユーチューブ」などがより子どもたちの生活で身近なものになっていくように感じました。「ユーチューブでテレビ番組を録画したものを流してもよいか」という質問には、何人かの子どもが「よい」に手を挙げていました。実際にそういう映像を見ることがあるのかもしれない。こういうことからネット社会との関わり方をしっかりと考えていかなければならないと思いました。

「二〇周年式典を振り返って」

教頭 馬場 淳

九月に行われた二〇周年式典において、私学振興課の萩谷英明先生が祝辞の中で「桐光学園小学校の意志・表現・感謝は、最近耳にするようになった『非認知能力』の育成を、前から大切にしてきたのだと思う」という話をしてくださりました。『非認知能力』とは、二〇〇〇年にノーベル経済学賞を受賞したジェームズ・ヘックマン教授が主張する「非認知スキル」をもとにして考えられたもので、意欲や協調性、粘り強さや忍耐力、計画性などを指しているようです。(参考…「これからの幼児教育」ベネッセ教育総合研究所、日経ビジネスオンライン)

私たちが掲げている校訓は皆さんもご存じのとおり、「意志」強い意志を持ち、何事も最後までやりとげよう。「表現」自分の思いを伝え、他者との関わりを深めよう。「感謝」家族や友だちを大切に、感謝する心を持とう。というものです。その校訓には、努力することや高い目標を掲げること、気持ちを伝え合って信頼し合ったり助

け合ったりすること、周りの人に感謝したり人の役に立つ喜びを感じたりできることを、大切に育てる人間に育ってほしいという願いが込められています(詳しくは1ページをご覧ください)。校訓と非認知能力が完全に一致するわけではないと思いますが、今回の二〇周年記念式典での萩谷先生の祝辞をお聞きして、私たちが大切にしてきたことをこのように評価していただく方がいるということを知ることができたことも、二〇周年記念式典を行ったことによる大きな収穫だと思いました。

さて、この校訓については平成十七年度に斎藤校長(当時は教頭)が中心となり、「校訓の内容がより心に届くように、そして教職員、児童、保護者、この小学校に関わるすべての者が常に校訓を意識していけるようにしたい。」という気持ちから、文章だけで表現されていた校訓をわかりやすく表す「意志・表現・感謝」という三つのキーワードを考えたという経緯があります。開校当初から掲げてきた校訓をさらに伝わりやすく、意識していけるものにしようという熱意と今まで行ってきた教育を超えるという覚悟があったからこそできたことだったと思います。

これからも、私たちは不変のものと進化させていかなければならないものを見極め、子どもたちにとつてよりよい教育を追及していく所存です。そのために「意志・表現・感謝」という校訓のキーワードの成り立ちに表されるような本校の積極的な姿勢をよき伝統とし、邁進していきたいと思えます。

**お知らせ** 今年度父母会長をお願いした平康さんはご都合によりお子様が転校されたため、後期より副会長の和田さんに会長を務めていただくことになりました。

## 4年生「社会科～くらしのうつりかわり～」



社会科の「くらしのうつりかわり」の学習の中で、府中市郷土の森博物館へ行きました。この博物館では、敷地全体を府中市の縮図としてとらえ、かつて市内にあった江戸時代から昭和初期の建物八棟を移築・復元しています。学芸員の方が特に解説してくださったのは、府中市若松町にあった茅葺き農家の「旧河内家住宅」です。土間や各部屋の役割、かまどや囲炉裏の使い方など、昔のくらし方を教えていただきました。常設展示室では、かまどで使われる台所用品の使い方を教えていただき、昔の人が色々な物をリサイクルして最後まで使っていたという知恵や、言葉の語源などについてのお話をうかがいました。子どもたちは今まで以上に昔のくらしに興味を持ち、昔のものよさや不便さを感じつつも、色々なものを生み出してきた昔の人々の知恵に驚いていました。

(田端史子)

## 5年生「玉ねぎの栽培」



昨年度までは次年度の収穫祭に向けて五年生の後半から農園でジャガイモを育てていましたが、連作障害などの影響で今年度は玉ねぎを育てることにしました。今年度が初めてということと、上手く育てられるかはまだわかりませんが、夏には多くの玉ねぎが収穫できるように頑張っていきたいです。さて、先日農園にて玉ねぎを育てるための畝作り、苗植えを行いました。十一月に入っているにも関わらず虫に苦戦しながらも、精一杯に取り組んでいました。畝作りでは、周りのクラスメイトと協力しながら土を積み上げ、平らにし、マルチを上手に張っていました。苗植えでは、か細い玉ねぎの苗を大切にそうに扱い、一本一本丁寧に植える姿が見られました。大切に植えた苗が、今後順調に成長していくようにみんなで見守っていきます。

(新井航)

## 6年生「研究発表」

身近な生物の驚きの生態、歴史上の人物にまつわる逸話、宇宙の神秘など、各々のテーマに沿って研究に取り組んできました。「知りたい」という好奇心が研究の出発点です。テーマが決まると、さっそく調べていきます。インターネットによる情報収集のみならず、信頼できる文献を探すことも大切です。夏休み中、研究に関する史跡、資料館、工場などを訪れた子どもも多かったです。

次は、スライド作りです。パワーポイントの機能を効果的に使いながら、分かりやすくまとめていきます。文字の大きさや色づかい、アニメーションなど、子どもたちは試行錯誤しながら作り込んでいました。そのようにして臨んだ十一月の研究発表会は、新しい発見の連続となる楽しい時間でした。子どもたちの知的好奇心の扉が、大きく開いたことでしょう。

作品展では、六年生の展示教室で研究発表会の様子を放映いたします。半年間の研究の成果を、ぜひご覧いただけます。(猪狩 裕亮)



日々の学校生活の中で、子どもたちは様々な活動を行っています。今回、ご紹介したものはほんの一部です。ぜひ、その他の学校の取り組みについてもお子さんから話を聞く機会を作っていただければ幸いです。今後もご理解とご協力の程、よろしくお願い致します。



# ☆各学年の取り組みの様子☆

これまでの学校生活の中で見られた成長の様子を、各学年の取り組みとともにご紹介します。

## 1年生 「2年生主催 みんなの広場」



一年生は、二年生主催の「みんなの広場」に招待されました。二年生の子どもたちは、「一年生に喜んでもらおう」をコンセプトに催し物を考え、グループ毎に分かれて取り組んでいたようです。当日、一年生がドキドキしながら会場である体育館に入ると、二年生が拍手で迎える温かい雰囲気、そしていつもと違う体育館の風景に子どもたちの目は輝いていました。そして、みんなの広場の時間が始まると、二年生の相手のことを考えた動きや話し方に、一年生は安心して楽しんでいました。その後、教室に戻ると、「すごく楽しかった。」「二年生が優しかった。」「今度は自分たちが次の一年生にやってあげたい。」などの声が聞こえ、どの子も笑顔でした。一番身近なお兄さん、お姉さんから、とてもよい刺激をもらい、来年への目標を持つことができました。

(蒲谷誠一)

## 2年生 「秋の散歩～こどもの国～」



二年生は、十一月に秋の散歩に行ってきました。今回の散歩では、植物や生き物の様子を春の遠足のときと比べて観察したり、落ち葉や木の実、小枝などを拾ったりしてきました。春に訪れたときには、青々とした木々や鮮やかな色の草花が見られた場所が、赤や黄色に紅葉した景色に変わっていて、季節の変化を十分に味わうことができました。また、お昼休みには、広々とした原っぱを駆け回ったり転がったり、たっぷりと遊んで過ごす時間もあり、クラスや学年の交流を深めることができました。作品展で展示する「お気に入りマップ」と「森のピザ」は、秋の散歩のまとめとして取り組んだ活動です。どちらも、子どもたちの豊かな表現力が大いに発揮された作品となっています。今後の総合は、桐光郵便局の開局と、成長アルバム作りを予定しています。ポストの観察や写真の用意などで、保護者の皆様にご協力いただく場面もあります。その際は、どうぞよろしく願っています。

(高橋健一)

## 3年生 「柿農園見学」



十一月九日(水)に黒川東富農団地にある柿農園に社会科見学に行きました。子どもたちは、事前に柿農園で育てている次郎柿、富有柿、禅寺丸柿をじっくり調べ、見分ける力を磨いてから見学に臨みました。柿農園は北風の吹きさらす厳しい環境でしたが、農園主の志村さんのお話に耳を傾げ、たくさんのメモを取ることができました。広い農園の農作業に使う草刈り用の車両や消毒用の車両に、子どもたちは興味津々の様子でした。最後に、柿の収穫体験を行いました。一つひとつの柿をじっくり眺め、とっておきの柿を選別する子どもたちの表情は、真剣そのものでした。

見学後、社会の授業で見学のまとめとなる「柿づくり紙芝居」をグループごとに作成しました。今週末に行われる作品展で展示する予定ですので、三年生の子どもたちがどのようなことを学んだのか、ぜひ紙芝居をご覧ください。

(島本浩樹)

# 活動◇紹介

日頃の様々な活動において、実際の実践を厳選し、そこでの様子や指導のねらいなどをご紹介します。

## 作品展に向けて

作品展は、毛筆書写の授業にとって1年間の総まとめです。4年生は半紙に、5年生と6年生は三枚判（半紙を三枚つなげた大きさ）にそれぞれ毛筆で課題の文字に挑みました。4年生は、まだ毛筆をうまく使えないけど、今までやってきたことを思い出して目の前の文字に集中して書いていました。5年生は、初めて書く長い紙に悪戦苦闘しながら挑戦しました。その中で、名前が気に入らないと書き直す子がいたり、あきらめてしまいそうになったりした子がいましたが、最後まであきらめないで取り組むことの大切さを学んだようです。6年生は、3年間の経験を文字で表現できるように頑張っている様子でした。さすがに経験者は落ち着いて書いているなど感心しました。小学校を卒業すると毛筆を使って文字を書くことは本当に少なくなってしまうのですが、毛筆で文字を書くということだけで日本の伝統につながっていくことですので大人になっても忘れないことでしょう。また、5年生と6年生の全員で来年の干支「酉」（鳥）を色紙に書きました。いろいろな「酉」（鳥）を見て楽しんでもらえればと思っています。（宮野弘毅）



## 図工について

図工の授業は、児童の成長に沿うように学年に応じて様々な制作活動を取り入れています。発想の豊かさ、道具を正しく使い、考えて取り組む姿勢などを主に学んでいけるように活動しています。現在は間近に迫った作品展の展示準備を全学年で行っています。作品展は普段の授業で制作した作品を展示する展覧会です。今年は12月17日（土）に行われます。当日はそれぞれの作品をじっくりご覧いただき、お子さんから作品に取り組んだ時の話を聞きながら鑑賞していただくと、制作していく中で子どもたちの思いや取り組んでいる様子、試行錯誤をしてきた姿が伝わってくるのではないかと思います。また、全学年を通して観ていく中で、思考の深まりや、技術の向上などの成長も感じていただけるのではないのでしょうか。保護者の方々には、その頑張りを見つけて認め、褒めていただきたいと願っています。そうしたことが、子どもたちの意欲を高め、今後の更なる成長にもつながっていくと確信しています。是非、ご来校ください。（大矢高弓）

